

幸水(品種解説シリーズ)

園芸作物の新品種

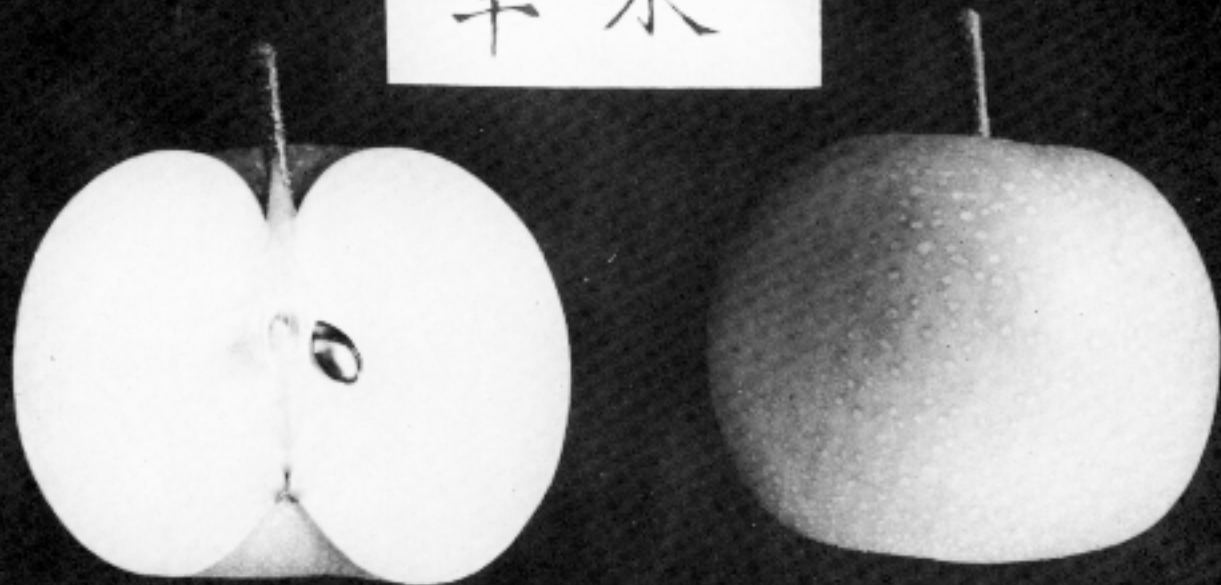
誌名	園芸作物の新品種
ISSN	
著者名	
発行元	農林水産技術会議事務局
巻/号	
巻号補足	
掲載ページ	p. 81-82
発行年月	1967年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター

Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



幸 水



ナシ「幸水」

幸 水（こうすい）

登録番号 ナシ農林3号

旧系統名 キ-26

1. 育成経過

本品種は昭和16年(1941)に「菊水」に「早生幸蔵」を交配して得た交雑実生である。

は(播)種年次 昭和17年(1942)

接木年次 昭和18年(1943)

初結実年次 昭和22年(1947)

第1次選抜年次 昭和24年(1949)

昭和24年(1949)以後、「雲井」「翠星」などと同時に、地方適応および特性検定試験を行ない、その結果、品質がとくにすぐれ、栽培面でも経済品種として十分な特性をもつことが確認されたので、昭和34年(1959)に「幸水」と命名し発表した。

2. 特性概要

樹勢やや強く、やや直立性である。

当年生枝の先端の細毛は少なく、節間の長さ中位、色は灰かつ(褐)色を呈する。皮目の大きさ中、密度は粗である。

一般に樹勢はやや強い方に属し、短果枝の着生やや少なく、特に若木の時代には少ない。また、えき花芽少なく、全体として花芽の着生は多い方ではない。

花芽の大きさは、やや小で、長円すい(錐)形を呈する。

葉芽の大きさ中程度で長三角形着生角度は小である。

わか葉は濃赤かつ(褐)色を呈し、細毛は少ない。

成葉は大きさ中程度、全形長だ(楕)円形で基脚はだ円形、先端は鋭い。きょ(鋸)歯は針状きょ(鋸)歯で小さく密である。

葉柄は、やや長い方に属する。

一花そう(叢)中の花数は8~11で、やや多い。花こう(梗)の細毛は少ない。花卉やや大きく白色で周辺にわずかに波状裂刻を認める。開花直後の花卉の周辺は、淡紅色を呈する。雄しべは多く32~35本で花粉は多量にある。

開花期 4月中~下旬で、長十郎より2~3日おそい。

果実 果実の大きさ中で平均240g程度、形状はやや偏円形で、玉ぞろいは長十郎ほどよくない。こうあ(梗窪)は広く、深さ中、ていあ(蒂窪)は広くて深く特徴がある。果こう(梗)は中程度の長さで細く肉こうはない。また、へたはない。

果皮の色は中間色に属し、果皮のコルク発達は環境条件により異なり、普通は果点間コルクが発達し、果皮全面を覆うが、時によると、コルクに覆われない黄緑地が部分的に見られる。成熟すると、黄緑かつ色を呈し、果点の鮮度は明りょうで大きさ中、分布は中である。

果肉は白色、果心は小さく縦断面円形である。肉質はち密で軟らかく多汁。赤ナシでは最優秀、「長十郎」よりはるかに良好である。甘味多く、屈折糖度計の示度は、ふつう12°~13°を示し、酸味ほとんどなく、渋味はない。独特の「幸蔵」の香味を有する。貯蔵性ふつう。品質はきわめて優秀である。

成熟期は平塚で8月下旬、「長十郎」より約10日早い。

3. 適地ならびに栽培上の注意事項

赤ナシとして、きわめて品質が優良で、「二十世紀」に比べても劣らず、甘味はむしろまさっている。従来赤ナシは品質が悪いという考え方があったが、この点でも特異な品種であり、交配母本として

の価値も高いようである。また、「長十郎」より早生であるため、赤ナシの主要品種である「長十郎」の出荷の山を調節する品種として栽培的価値が高い。

樹勢やや強く、伸長力は「長十郎」よりおう盛である。若木の時代には花芽の着生は少なく、短果枝の着生も少ないが、成木になると短果枝も着生するようになる。しかしながら、本来少ない方で、また、えき花芽が、きわめて少ないため、整枝せん定上に工夫を要する。花粉は多量にあり「新水」を除けば主要品種との間には、強い交配不親和性を認められず、したがって、授粉樹としての価値も高い。とくに、「長十郎」に比べて開花期が2～3日おそいだけなので、両者の混植可能である。

収量については、今後十分に検討する余地があるが、「長十郎」ほどの多収を望むのは無理のようである。しかしながら、品質がきわめて優良であるから、多少収量の低い点は問題にならないと思われる。

黒はん病に対しては抵抗性強く、発生を見ない。黒星病には「雲井」ほど強くないが「長十郎」よりやや強いと認められ、葉には病はんを認めるが、果実にはほとんどない。

4. 試験成績

各地における開花期、収穫期、1果平均重および果汁糖度に関する発表当時の成績はつぎのとおりである。

(1) 昭和33年(1958)

試 験 地	開 花 期	収 穫 期	1果平均重	果汁糖度
	月 日	月 日	g	
新 潟 園 試	4.25—5. 4	9.11—9.23	230	11.0
農 林 省 園 試	4.17—4.28	8.19—8.25	250	—
三 重 農 試	4.13—4.27	8.17—8.25	210	13.0
滋 賀 農 試	4.19—4.25	8.23—8.31	329	10.7

(2) 平塚における収量(1樹当り収量Kg)

品 種	昭 24	昭 26	昭 27	昭 28	昭 29	昭 30	昭 31
幸 水	1年生苗	—	1,740	11,660	27,820	43,970	42,640
長十郎	栽 植	2,620 ^{Kg}	1,190	23,870	33,740	57,340	74,520

5. 育成場所および育成者氏名

園芸試験場

梶浦実, 森英男, 森田義彦, 金戸橋夫, 町田裕